

# 祝 松南地区町会連合会設立60周年

令和6年2月25日、松南地区町会連合会が設立されて60周年を祝う式典がなんなんひろばで盛大に開催されました。本来ですと令和3年に設立60周年を迎えるところでしたが、コロナ禍により、本年に記念式典を開催したものです。



**松南地区町会連合会**  
**60周年に寄せて**

**松南地区町会連合会会長**  
**中田景文**

松南地区には平田里古墳をはじめ多くの古代の遺跡が存在します。古代の人々の生活適地であったからでしょう。

また現在の松南地区の発展の礎としては、太平洋戦争末期の軍需工場の疎開があげられます。終戦後の八十年間で松南地区は人口も増え、商業集積も進み、暮らしに便利な住みよい街となりましたが、少子高齢化社会の到来に伴い様々な弊害もたらされております。論語の「温故知新」の諺のように（本来の論語の意味とは少し違いますが）古代の松南地区を再確認していただき、新たに未来に向けて老若男女が暮らしやすい社会にするためにはどうするべき



かを皆さんに立ち止まって考えてほしいという思いで記念式典を企画しました。高齢化社会に向かう中で行政の更なる施策も必要ですが、一人一人のちよつとした思いやりや気配りで地域社会は住みやすい街に変わっていくことと確信します。最後に式典の実施に当たり多くの皆様から多大な御協力を頂きましたこと深く感謝申し上げます。

## 進む少子高齢化

館報編集委員長 塩原保彦

平成3年、松南地区は、創設30周年を迎え、「記念式典」「記念球技大会」「ふれあい大運動会」が開催され、「記念誌」を発行し、大変な盛り上がりでした。

それから30年、令和3年、地区は誕生60年になりました。少子高齢化が進み、年金支給年齢が上がり、働く高齢者も多くなり、町会加入率も低下(約75%)、町会役員を引き受けてくれる人も減り、町会が成り立たなくなる危険も出てきています。

### 3Fロビーへの展示



町会の今昔などを展示しました

町会長を町会から出せない場合には、町会を休会にして、町会連合会を脱会するか、松本市から派遣してもらわなくてはならない事態も心配されます。各町会で一人暮らしの高齢者の増加も深刻な問題となっています。孤独死、災害時の対応はどうなるのでしょうか。少子化も進み、小学生の児童の伝統行事、青山様・ほんぼん・三九郎が、できなくなり、地区全体で継続を考えなくてはならない状況になっていきます。子どもの貧困も深刻で、子ども食堂に、子どもがどの位来ているのでしょうか。松南地区も、大きな問題を抱えています。

### 平田里古墳群 「水鳥埴輪のバッジ」

### 平田里水鳥埴輪バッジ



出川南遺跡第4次発掘調査がジャスコ（現イオン）出店に伴うために、市の文化財課のもと行われ、多くの土器等のカケラと一緒に、形を再生した中に埴輪がありました。後に「平田里古墳群」と名付けられ一連の遺跡はその遺物で「水鳥埴輪」と命名されたものです。

松本のような内陸部ではとても珍しい宝物です。

「松南地区史跡ゾーン整備委員会」を組織し、史跡マップ事業を進める中、「この宝物を地区の人々と日の当たるものにしたい」そんな思いをもち続け、多くの方々に語っ

### 講演会 (直井 雅尚氏)



松南地区の原始・古代と平田里古墳

たのですが、賛同を得られず、やっと今回叶いました。でも作れば良いのではなく、このバッジの意味・思いを地区の方々と共有したい、それが私の最大の願いで、皆さんの胸に誇らしく飾ってほしいです。

もつと夢は膨らみ地区公民館に水鳥埴輪のミニチュメントやオブジェなどで表現して残せたらと更なる願いです。その折にはもつと皆様に周知浸透いたしますようにしたいものです。

(百瀬 壽)

※バッジの販売等については後日回覧板等でお知らせします。

### 松南地区 マスコット キャラクター



松南地区町会連合会設立60周年を記念したマスコットキャラクターを紹介します。

信濃むつみ高等学校の生徒が平田里水鳥埴輪をモチーフとして作成したものです。

### 「未来に向かって 松南地区ケアの まちづくり」

パネルディスカッション



「今どき周年事業をする地区には、何か力があるに違いない。今日は地域の宝を探しましょう。」ファシリテーター 尻無浜先生の呼びかけ。パネルもフロアも皆住民。うちとけた語り場でした。

まずは地区を結ぶ「なんぶ未来まつり」の報告。南松本商工振興会と町会連合会との協力で絆づくりに貢献してきました。

少子高齢化は喫緊のテーマ。パネラーから子どもたち



の心情を聞き、高齢者との交流や伝統行事など地域との接点の大切さを学びました。高齢化への取り組みは、生活応援隊「こだま」が報告。「心細い高齢者の良き傾聴者でありたい。」とTさん。積み重ねた人生の重い声でした。でも組織の高齢化は切実で、発展的な継承も急務です。

地区は社会福祉協議会のひざ元です。木陰マルシェや地域支え合い講座を展開しています。そこには「人間は皆同じ」という思いが流れています。ケアには個々の事情が難関、軽々には進みません。しかし「共助」が軸足の地区であると期待しました。

(白澤 幸男)